

長皇子、ながのみこ 獵路の池に遊でます時に、かりぢ 柿本かきのもと

朝臣人麻呂の作る歌一首 并せて短歌あそみひとまろ

二三九番

やすみしし 我が大君 高光る 我が日の皇子の
馬並めて み狩立たせる 若薦を 獵路の小野に
鹿こそば い這ひ拝め 鶉こそ い這ひもとほれ
鹿じもの い這ひ拝み 鶉なす い這ひもとほり
恐みと 仕へまつりて ひさかたの 天見ること
く まそ鏡 仰ぎて見れど 春草の いやめづ
らしき 我が大君かも

反歌一首 はんか

二四〇番

ひさかたの 天行く月を 網に刺し 我が大君は
蓋にせり きぬがさ